

平成28年度第1回一宮町総合教育会議概要

1. 日 時 平成28年8月10日（水）午前11時00分から午前11時50分
2. 場 所 保健センター 3階図書室
3. 出席者 馬淵町長、中村委員長、伊木教育委員長職務代理者（委員）、町田教育長（委員）

4. 配布資料

- ・一宮町総合教育会議 会議次第
- ・一宮町総合教育会議 名簿
- ・一宮町教育大綱
- ・一宮町総合教育会議設置要綱

5. 会議内容

1) 委員紹介

○馬淵町長が就任して1回目のため委員の自己紹介を行った。

2) 意見交換会について

○以下の通り意見交換を行った。

馬淵町長；文部科学省の方針や2020年の学習指導要領の改訂に伴い、アクティブラーニングがキーワードとなっている。学習院大学に文部科学省の係官が来てアクティブラーニングの推進の任務を担ってほしいと依頼があったとのことで、文学部の諏訪教授からぜひ一宮町とコラボレーションしたいとお話があった。

学習院大学は教員の誘引力を比較的持っており、フットワークが軽いため新しい試みがしやすいと思う。今回の改定には統制性というより自発性に重きを置くという方針があり、安心して任せられるのではないかと思う。これは短期的なものではないので合意が得られれば徐々に進めていきたい。

中村委員長；いい考えだと思うが、具体的にはどう行うつもりか。先生を招くことができるのか。事例として取り上げられているのは私立のアクティブラーニングの先端を走っている所であり、これを公立学校の義務教育に適応させることができるのか疑問である。

馬淵町長；現場に即していないと意味がない。意見交換をして一宮に合う形にしていく必要がある。学習院大学からやった方が良いという話であったが、合わなければ無理に行く必要はない。

中村委員長；なぜかという生徒の学力低下が懸念されている中で、先生の指導力を急に上げるのも難しい。もともと忙しい中でやっているのに、研修にいくようにするのか不安な部分である。

馬淵町長；もちろん教員の負担が増えてしまうことは問題なので無理のない範囲でシフトしていきたい。

町田教育長；要領の改訂はアクティブラーニングだけではない。その他も踏まえて無理なく行いたい。アクティブラーニングは新しい言葉だが、実際は既にやっていることも多いので小学校は理解しやすいかもしれない。中学校は手法を変える必要がある。教員は部活の顧問をしており、夏休みなどもないような状況である。

馬淵町長；家にいるとき以外はすべて学校の先生が面倒をみななければいけないため負担が大きい。その他の部分は社会教育の面で補うべきである。

中村委員長；優秀な教員を引っ張ってくることは難しいので、考え方を変えていないと教育行政を進めていくのは不可能。

馬淵町長；今いる先生と何ができるか考えることが重要である。お金をかければ即効性はあるが、財政的にも不可能である。やはりできるなかでベストを尽くした方がよい。

渡邊委員；この発想は生徒にやる気が無ければ、お金をかけても意味がない。自発性を促すことがアクティブラーニングの本質である。

馬淵町長；自発性をどう促すか、できない生徒でも良い部分に注目し伸ばしてあげることがポイントである。

渡邊委員；もちろん結果として点数などに表れてくるが、クラス全体の意識が高いことはとても重要だと思う。生徒によって得意不得意があり、とかく悪い部分に目が行きがちだが先生や保護者が良い部分を伸ばしてあげるように考えていくことが必要である。

伊木委員；生徒の意識を高めるためには校長先生を始めとして生徒に対してポジティブに接することが大切だと思う。また、地域と学校が互いに協力的な関係であることはいいことである。小学校より中学の方が閉鎖的であると感じる。部活も先生によっては大きくばらつきがあるので、学習面や生活指導を重点的に行ってもらい、部活動の指導は外部の手

を借りる形を作った方が良い。

馬淵町長；中学校だけですべてを行おうとするのはとても厳しい。いずれはそういう形も考えていった方が良くと思う。

伊木委員；この夏休みに、民間企業主催で大学生が中学生や高校生を対象に教えてもらえる機会があり参加した。プログラミングなど色々な分野があり、自分が考えている物を形にしていき、そこで皆から賞賛を受けることで自分の肯定感や自発性を促すことができるとても貴重な体験だったと思う。

馬淵町長；大学生と中学生や高校生と小学生のように少し離れた異年齢の人と関わるというのは社会性の涵養に非常に良い体験であり、良いアイデアであるので、参考にしたい。

以上

※総合教育会議は年1回以上の開催としているがそれぞれ議題があれば随時開催することとしている。